

令和6年度第2回日野町総合教育会議議事録

1. 日時：令和7年（2025年）2月21日（金） 15時05分～16時17分
2. 場所：西大路公民館
3. 出席者
堀江和博日野町長
日野町教育委員会：安田寛次教育長、本居節子教育委員、村井優子教育委員 川原正志教育委員
庶務：小島 勝企画振興課長、菊地智子企画振興課課長補佐
正木博之教育次長、赤尾宗一不登校対応担当課長、加納治夫生涯学習課長、平松久明図書館長、森 弘一郎子ども支援課長、山中博嗣学校教育課主席参事、振角生涯学習課補佐、杉川生涯学習課主事、日野公民館藤澤賢太郎主事、東桜谷公民館北浦昌子主事、西桜谷公民館安田哲則主事、西大路公民館野矢美幸主事、鎌掛公民館山下良雄主事、南比都佐公民館藤崎主事、必佐公民館高木美知主事
4. 傍聴人 0人

開会 （企画振興課課長）

町長あいさつ

協議事項

【町長】

それでは協議事項に入らせていただきます。

まず「各地区公民館の特色ある活動について」、お話いただければと思います。よろしく申し上げます。

【生涯学習課長】

皆さんこんにちは。

改めまして、私生涯学習課長なのですが、中央公民館の館長も拝命させていただいております。各地区公民館の支援などを行っております、今日は生涯学習課から公民館支援の職員ということで、振角と杉川にも来ていただいているところです。

せっかくなので、まず日野公民館の藤澤さんから自己紹介していただいてから各公民館の特色ある活動ということで。簡単に名前だけ申し上げます。

【藤澤主事】

皆さん、こんにちは。日野公民館の主事をさせていただきます藤澤といいます。よろしく申し上げます。

【北浦主事】

皆さん、ご苦勞様です。東桜谷公民館主事の北浦と申します。よろしくお願いいたします。

【安田主事】

西桜谷公民館の安田です。よろしくお願いします。

【野矢主事】

皆さんこんにちは。ようこそ西大路へ。西大路公民館主事の野矢と申します。よろしくお願いします。

【山下主事】

皆さんこんにちは。鎌掛公民館の主事をしております山下と申します。どうぞよろしくお願いします。

【藤崎主事】

南比都佐公民館ですけれども、本来のNo.1の主事は育児休職しており、No.2の主事がもう1人女性の方がおりまして、私はNo.3の主事です。藤崎です。よろしくお願いします。

【高木主事】

皆さん、こんにちは。必佐公民館の主事をしております高木と申します。よろしくお願いします。

【杉川主事】

生涯学習課の杉川と申します。公民館担当しております。よろしくお願いいたします。

【振角補佐】

同じく生涯学習課の振角と申します。よろしくお願いいたします。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

「公民館と私たちの暮らし」ということで、今回「議会だより」が配布されたと思いますが、その表紙の裏側に、各地区公民館を議員さんの広報担当の方が取材されて、それがちょうど載っておいりましたので今回の資料の表紙にさせていただきました。

これよりは日野公民館から順番に特色ある活動をピックアップさせてもらって発表させてもらいたいと思います。

それでは日野公民館から、よろしくお願いいたします。

【藤澤主事】

それでは皆さん、日野公民館の特色事業を発表させていただきます。

お手元の資料は、日野公民館が10ページまで資料として提供させていただいております。まずいくつかピックアップして発表させていただきますが、日野公民館では実行委員さんとの事業としまして、一番に体育事業の方を強化して取り組んでおります。

体育事業としまして「ふれあいビーチボール大会」。野球大会の予選と決勝。町民運動会と、区対抗のグランドゴルフ大会。そして、初心者に参加を呼び掛けている「ふれあいグランドゴルフ大会」の五つの事業を開催しており、今年度は地域のスポーツ振興を目的とした体育委員向けのニュースポーツ研修会をスポーツ推進委員さんをお願いし、モルックやスローイングビンゴ、ポッチャ等の指導

をお願いしました。

このなかで一番力を入れているのが町民運動会です。町民運動会は、公民館3大事業の、住民交流の納涼祭、体育事業の運動会、そして、文化事業の文化祭。三つあるなかの一つです。

こちらの方は、観客の方、そして選手の方。観戦して楽しい、参加して楽しい。みんなで楽しめる運動会というものを目指し、例年プログラム検討委員会という、体育委員のなかから選ばれた方、正副委員長、運営委員、私館長も入りましてプログラムの内容のルールの検討や、順番、「今年はどうやっていこう」、「新競技を入れよう」もしくは「こういうところを直そう」という感じで毎年話合っています。今年度は新競技を一つ入れたのと、ルール変更が6種目というふうに変更をいたしました。プログラムの内容については、1、2ページが運動会のプログラムです。

非常にいろんな意見等が出ますが、やはり「この競技はやめてほしい」などの意見も出ます。しかし、やめてほしいという競技は見ていると楽しい競技なので、何とか続けられないか。

例えば、ものを食べながら進む2番目の「食欲の秋」という競技は、女性がどうしても出たがられないのと、「急いで食べたら喉につまる」という意見が必ず出るので、なるべく女性でも喜んで食べられそうなものや、喉につまらなさそうな柔らかいゼリー状やクリーム状のもの、シュークリームなどでいこうという話でいきました。

そして、11番目に「障害物リレー」というのがありますが、これも「新競技は何かないか」ということで、いろいろネットで検索したりして10個ほど提案させていただいたのですが、そのなかの一部採用していただいて…今一つ入っているのが、箱をバトン代わりにして配達屋さんみたいに持って走るのが楽しいのではないかという意見もあったので、これをやらないかと提案したのですが、「これだけでは面白くないから」ということで、一度に持つということになったのです。そうすると「背の低い人はどうするか」などの意見が出るのですが、それは「体育委員が選手を選ぶときに考えてください」とお願いをしまして、今回、全ての協議を行うことができました。

そして、日野公民館で「わくわくセミナー」というのを実行委員事業と同じくらい強化して行っています。「わくわくセミナー」は3ページから資料の方をつけております。

こちらの方は男性女性、年齢も不問で日野地区の方に優先的に声をかけているのですが、地区外の方も参加OKということで、今現在140名ほど会員様がおられます。

その皆さんに少しでも公民館へ来て楽しんでいただきたいという考えから、「ワクワク、ドキドキするような感動を体験し、輝く明日のために心豊かにエンジョイ」というつもりで「わくわくセミナー」と名付けました。

昔は年齢を60歳未満と60歳以上に分けておりましたが、一緒に皆さんに楽しんでいただくということで一つにしました。

そして、内容は連続講座で何回も進む講座です。もの作り講座や、歌とリズム教室、料理教室、体操教室、ウォーキング教室、パソコン教室、おもしろ講座、絵手紙教室、寄せ植え教室などがあります。

一つの教室で毎月するものがありまして、それは12回と数えさせていただくと、開催日数は年間100回を超えます。教室によっては同日同時間帯に開催するというものもあります。

その物作り教室の、折り紙教室を特に強化しておりまして、折り紙教室は毎月1回開催をしており、折り紙することで、よく認知症の予防等などの話もお聞きしますが、さらに複雑になっています。

今回、6年目か7年目になるのですが、例年試行錯誤し、すごく凝ったものを作っておりまして、難しいものではあるのですが、チャレンジすることによってできたという喜びや、今受講者の方が大体三、四十名おられるのですが、我々も教えるなかでやるのですが、受講者さん同士で教え合ったりなど、受講者の交流も考えております。そして、「できたものをその人にプレゼントして喜んでもら

えた」との声もいただいております、頑張っていることによって集中力が育まれて、「こんなふうにはできるのかな」という発想や、指先を使った脳の活性化などあると思いますが、そんなことを目指してやっています。

そしてもう一つは「音楽のまち日野」ということで、コンサートを開講式とクリスマス、ひな祭り、閉講式、それぞれに音楽イベントをしています。

日野地区にも少年少女合唱団さんがメインで活躍してくださっていますが、他にも混声合唱団さん、コールシャクナゲさん、ひの咲くレモンさん。ひの咲くレモンさんもつい最近できたのですが、少女合唱団の出身の方が多いということで、新しく活動していただいて文化祭の方にも出演をお願いしているところです。そして、日野中学校の音楽部さん、日野高校の音楽部さんですね。最近文化祭に出演をお願いしております、日野高校の音楽部さんは人数が少ないみたいなのですが快く受けていただけました。地域の合唱活動として皆さんに認知していただき、やはり日野公民館で発表してもらうのも大事かと思ひまして、いろんなイベントの方もいらっしゃいます。

また、日野地区の方でもライブをしていただいたり、楽器演奏という形で出演していただけるという団体さんもおられます。

では以上、三つについてお話をさせていただきました。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

続きまして、東桜谷公民館です。よろしく申し上げます。

【北浦主事】

東桜谷公民館です。東桜谷公民館で取り組んでいます提案型事業についてお話をさせていただきます。

東桜谷公民館では令和3年度から公民館の提案型事業という要綱をいただきまして、あくまでも公民館事業の一環として立ち上げております。その要綱が変更になり、今現在では公民館事業ではなく地域の方が自主的に立ち上げてやっていくところもあります、令和3年度から現在まで東桜谷公民館としてはあくまでも公民館事業としての提案型活動事業を行っております。

まず令和3年度には、コロナ禍で非常に皆さん沈んだ気持ちのなかで取り組みのお話があり、「何とか元気な桜谷に」ということで、要綱に沿いまして、公民館職員と公民館の役員で相談をし、ボランティアで参加いただける方をお声がけしたところ、快く役員、スタッフとして入っていただけるということで、「おうけい（桜溪）ふえす実行委員会」というのを立ち上げまして、令和7年度の5年目も開催する予定です。

内容としましては、令和3年度の写真もありますが、「らくがきふえす」ということで、これは30年来の地元住民の念願でした道路が開通するというので、その記念事業として何か残せることがないかということで「らくがきふえす」という形で開催しております。

また、コロナ禍で今の沈んだ気持ちが10年後にはコロナが笑い話になるかなというところで、今残しておきたい状況や写真を埋めておこうということでタイムカプセルにした写真が、10年後開封する予定のタイムカプセル事業。

それから、小学校のいろんな事業。例えば小学校のマラソン大会があったら、それを応援する形で何か公民館や地域住民で盛り上げることができないかということで、マラソン大会の応援事業や、150周年の事業。何とかもっと小学校を盛り上げようということで、いろんな方と小学校と相談した結果、「手形足形さくらアート」。畳4枚以上ある大きさですけれども、小学校の絵を住民の方にボランティアで描いていただいた下絵に手形足形でスタンプを押して行って絵として仕上げるということで、

これは今現在小学校の体育館の壁に大きく固められて残されております。

最近では町民駅伝の応援企画ということで、地区を順番に町民駅伝が回っているのですが、せっかく東桜谷がスタートとゴールなので、地区外の方がたくさん東桜谷に足を運んでいただけるということで、地域として元気な姿を見せられないかということで、模擬店などを企画して、応援などしていただいた方に温かい飲み物約1本を提供したり、様々な活動をしていただいています。

また、ここ2年ほどは春まつり、秋まつりといった形でマルシェなどを開催して、地域の活性化を図っております。

「おうけいふえす実行委員会」については、普通の公民館の実行委員さんには今の負担以上のことはかけられないということで、声かけをして組織した実行委員で会議等も何回か重ねるのですが、皆さんから「どんなことをしたらいい」、「こんな小学校の授業がある」、「こんな地域の事業がある」、「そうしたらこんなことで盛り上げよう」ということで、ものすごく前向きに検討いただいて、いろんなアイデアを出していただいています。

おかげで公民館職員だけではとてもできない事業など、大きく展開できるということで、本当に実行委員さんが、地域の宝というか、こんな人たちがいるということが、ありがたいことだと思います。

提案型事業の一本目は「おうけいふえす」なのですが、予算の方の枠があるということで、もう一つしていただけたらということで声掛けしていただいていたので、令和4年には「さくらぼうさい」ということで、災害の多いときでしたので地域防災について今一度学ぶ機会にしようかということで、子どもたちと飛び出し坊やを作ったり、また、防災マップを小学校の方で制作されていたので、地域の皆さんのところで発表していただいて、またそれについて意見交流会…地域や字の危険箇所や防災の問題点などを子どもと大人が意見交流するなどの活動をさせていただいております。

令和5年、6年に関しましては、ちょうど公民館が70周年に入るということで、それに関する事業をしようということで、コンサートやこいのぼりの展示など、何度かさせていただいております。

このなかで補助金が、提案事業は一事業に10万円いただけるのですが、当初は年間4回以上事業をするというような状況になっておりました。今現在は複数回、2回でもいいのですが、そんななかでこれだけの事業をしていくには資金が足りないというところで、役員さん自らも納涼祭等で模擬店などを出していただいて、もっと稼いでもっと大きいことしようということで、自己資金を確保して、自らそういうふうに動いていただいております。

役員としては、公民館職員と、公民館の運営委員長、それから区長会の方から出てきていただいたりということで実行委員会を作って、本部の基準事業にプラスアルファということで開催をさせていただいております。

公民館職員だけでは、このプラスアルファの事業は物理的にも無理ですので、こうやって地域の方が自主的に引っ張っていただいて、楽しいことを何かということで、自分たちも楽しいと言いながら、精力的に引っ張っていただいている形で続けられているのかなと思います。

本当にありがたいところです。以上です。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

続きまして西桜谷公民館、よろしく申し上げます。清掃

【安田主事】

西桜谷公民館の特色ある活動ということで、通学合宿の話をとということだったのですが、通学合宿は西桜谷だけがやっていることではなく、この町内でいうと東桜谷さんと南比都佐さん、それから西

大路さんという形で聞いておりました、少し調べてみましたら平成 20 年に県の方から、全国的に地域の子どもの場づくりを進めようということで通学合宿という名称で進められたというのが発端で、この日野町内が 23 年に東桜谷で実行委員会を出されてされました。29 年からは防災合宿というふうに変更して取り組みをされました。

それから平成 24 年、西桜谷、東桜谷がそれぞれ行っているということで、東西で実行委員会を立ち上げて、24 年度から始められました。平成 25 年には南比都佐公民館は実行委員会を立ち上げて実施され、27 年度より防災合宿として実施をされています。

西大路地区については平成 23 年度から実施されているということですが、これは公民館が関わっているのではなく、地域の方でお寺や集会場でされているという話で聞いています。ただ、昨年公民館を使用すると変更されてきたということですので記載はしておきました。

なぜ通学合宿をするのかということですが、それぞれの地域での通学合宿の取り組みの趣旨というのはあると思います。西桜谷については、少子高齢化で当然子どもが減ってきていますので日常的に共同生活を体験する場が少なくなっています。我々が小さい頃は子どもがたくさん居て、上下関係やなんやかんや言って、常に先輩後輩や近所の方々が一緒になっていたというのがあります。

しかし現状はそうでなくなっているところがあり、それからもう一つは、機械化や省力化で、日常生活が便利になりすぎていることも、子どもたちが家事を手伝うということがほとんどしなくなったと聞いています。

また、親がどんなふうに関わるか。共働きをされていて疲れて帰ってきてその辺にあるものを何とかという話も聞きますので、実際に子どもたちは親や家族がどんなふうに関わっていてどんな生活を送っているのかが見えにくくなってきているのではないのでしょうか。

そして、また地域の人の繋がりがどんどん減ってきて、自分たちだけが孤立していくというような話にもなっています。

いろいろな人々との 2 泊 3 日の共同生活を体験してもらって、もう一度昔ながらを知るきっかけを作ればと思います。

今は小学校の方で知らない人に挨拶をするなという話も出ていまして、地域の人が一生懸命声をかけているのに知らん顔するというのも、これはいかがなものかなと。確かに防犯等の関係はあるのですが、声かけをしてあげるから子どもたちも安心して通学するという形になります。

皆様の小さいときを思い出していただけたら、集団登校というのがありましたよね。6 年生が旗を持って順番に 6 年生から 1 年生まで並んで歩いていく。地域の人が朝、家の間で声をかけてあげたり、それがだんだん少なくなってきて集団登校できなくなってきた関係で、スクールガードさんが学校までわざわざ連れて行くと。スクールガードさんも地域によっては少なくなってきているので、車で送り迎えをされるというような、本当に個人個人の生活形態になってきているのではないかとこのころも含まれています。

では、参加対象者はどうするかというと、地区の 5 年生 6 年生。これは東桜谷さんもそうですし、南比都佐さんも西大路さんもそうです。

どんな組織が主体的に主催するのかというと、協力関係や団体等ですね。まず桜谷小学校の関係で校長先生。地区の区長会。それから公民館、青少年育成会、民生児童委員、まちづくり協議会。今はまちづくり協議会と言っていますが、以前は社会福祉協議会、人権啓発推進協議会など、三つの協議会が一つになっていますのでそういう言い方をさせていただいています。

それから実行委員会、あるいは老人会。地域によっては子ども委員会というものもあるのでしょうか。それもだんだん地域から、町の方から離れておられて脱退をされている関係で名称は変わりますが、我々としては老人会という形でさせてもらっています。

それから健康推進員さん。そういった方が実行委員会を形成して約18名から20名のなかで組織しています。令和3年まではこのなかに日本赤十字、日赤さんが入っておられたのですが、これも町の方から脱会をされたということで、地域も日赤さんがなくなったということで委員会からは離れたということになります。

役割ですけれども、まず健康推進員さんは子どもと一緒に料理を作ってもらおうと。子どもたちが勝手に料理できるわけではないので指導をしてもらおうと。

それから福祉で、二泊三日ですので初日と二日目に泊まってもらう必要があります。我々男性の方は交代で帰って泊まるということができのですが女性の方を見ることができませんので、今までは日赤さんにさせていただいておりました。脱会をされたのでその後少し苦労しましたが、健康推進員さんに、一日目は前年度の代表者の方と副代表の方が一緒に泊まっていたいただいて、二日目は現在の健康推進員さんに泊まっていたいただいてというような形に変えています。何かあったときに困りますので、そういった対策をとっています。

次はどういう活動をしているか、その活動の狙いなのですが、東桜谷さん、南比都佐さんとも異なるように、防災学習ではないので、元々聞いている話では個人の自立心や社会性、協調性、自主性等を磨くようにしたらどうかということで取り組んでいるという話も聞いています。したがって、共同生活を通じて、みんなが自分のことは自分でやるよう、自発的に取り組む力をつけていこうというのが一つの狙いになっています。

それから、いつも家族…お母さんお父さんやおじいちゃんおばあちゃんがしてくるため、なかなか自分では気がつかない、してもらっていることのありがたみがわからないということで、一旦離れてみればどうなのか、というのを経験してもらおうかと。小学校5年生で琵琶湖のフローティングという一泊で研修があるのですが、修学旅行も当然控えてきますので、こういったことも自分たちでできるようにしようというのがあります。

もう一つは、最後に地域の人との繋がりでですね。公民館という公共の場を通して、いろんな各地域の代表の方など実行委員さんに来ていただいています。自分のところの字の子は大抵皆さん方知っておられるのですが、他の字の子どもたちはなかなかわからない。そして、声掛けしようにも、先ほど言いましたように防犯の関係で返事してもらえないという話もありますし、そういった理由もあり繋がりがなかなかないということですので、その辺も深めていこうという形になっています。

参加にあたっては、元々子どもたちについては先ほど言いましたように二泊三日、三日間の全日程を終了するというのが原則になっています。その間についてはテレビゲームや漫画、携帯電話、そういったものについては一切持ち込まないという形をとって、自分たちで考えて自分たちで物を作ったりゲームをしたり遊んだりするような交流をしようという形になっています。

親との緊急連絡の場合は、これは実行委員または公民館からそれぞれ取らせていただきますが、私に来てからはそういった緊急連絡を取ったということがありません。

それからお風呂について、今までは「お風呂のもらい湯をしてもいいよ」と場を提供してくださる家が6件か7件あったのですが、平成31年、令和元年のときまではやっていたのですが、令和2年に皆さん方ご存知のようにいわゆるコロナ禍の関係があって密接密集は避けるということで、2年3年4年5年は、もらい湯というのをやめました。お年寄りの方もおられますし、今まで提供していた家族の方も高齢になってきておられますので、負担が増えています。その代わりに新しい方のもらい湯というのを探したのですが、なかなか最近では若い方の家は嫌がるということもありまして、昨年からは温泉施設、蒲生の湯か八風の湯のどちらかに行こうかということになりました。どちらが便利なのかということで最終的には蒲生の湯に行ったのですが、これは子どもたちにとっても人気がありまして。そういう温泉施設も知ることができる。当然中も広いから泳がないよという話も

してまして、その辺りは、昨年については今年中学1年生だった前年度の6年生がボランティアで3名来てくれました。男子は1名、女子が2名でしたので、一緒にお風呂に入ってもらって、子どもたちの様子を見て、時間になったらお風呂からあげてというところまでちゃんと協力をしてくれました。

今年についても今年の6年生で「来年僕も来てもいいかな」という話をしてくれていますので、これについてはこういった先輩たちがお手伝いをしていただくのが一番ありがたいかなと思っています。

食事やゲームについては、自分たちで各班に分かれて決めていきます。班編成については、人間関係、学校関係がありますので、学校の方に一任をしています。5年生、6年生の担任の先生、それから校長先生で振り分けてもらって班編成をさせてもらっています。その班編成に基づいて、みんなが食べたいものを朝食、夕食、それからゲームは何をするかというのを子どもたちが決めていきます。

最終的には健康が第一ですので、ただなかには食物アレルギーの方がおられ、最近は多くなっています。そういうこともありまして、健康調査票を保護者説明会の時に、内容を説明してお渡ししています。これについては健康推進員さんにしか見せていません。私たちと健康推進員さんで、その子の様子、それから薬を飲んでいて、投薬をしている子がいますので、それも個人のプライバシーの関係がありますので、守秘義務として、こちらで配慮しながら子どもに薬を飲ませるように進めています。

そういったものが積み重なって、だんだんと挨拶や、5年生6年生の上下関係、それからマナー、きちんと挨拶ができるようになります。

それからバスですね。バスで小学校へ行っていただく運転手さんにも声掛けをする。運転手さんからも「良かったですよ」という話も聞いております。これについては近江バスの八日市営業所で時間調整をして、乗れるような時間帯も全部セッティングして、計画を立てて進めています。

資料にある写真なのですが、16ページの左上のところに2枚あるのですが、平成31年、令和元年のときに流しそうめんがしたいという子どもたちの意見がありました。それなら流しそうめんを親や実行委員の大人が作ればすむことなのですが、自分たちで食べるのなら自分たちで食べるお箸、竹箸と竹の筒を作ろうじゃないかということで、竹を取ってきて切って、磨いて、そして洗って、流しそうめんを食べているというところになります。

右横の写真がお風呂、もらい湯のなかで撮らせてもらっている写真です。左下が、このもらい湯を提供されたお宅の方と楽しく団らんしているところです。

それから真ん中の黒い写真は烏骨鶏の雛です。子どもたちが通学合宿に来ている間に卵から雛が孵るように保育器に入れて、前もって準備していたのです。それがちょうどこの時に孵りました。必ずしも全て有精卵ではなく、有精卵であっても孵らないので、10個から15個の卵を用意して孵っていくというところになります。

ただ、去年からこれはやめました。と、いうのは、確かに生命の誕生を見せてあげるのはいいんだけど、後々この雛を誰が世話をするかという話になってくるわけです。小学校の方でも昔はウサギ小屋や鶏小屋があってという話で、そういう話もしたのですがなかなか難しい。

この平成31年、令和元年のときは地域の方が「烏骨鶏をもらってあげる」と預かってくださったのです。2年目3年目のときは烏骨鶏自体が高年齢で卵を産まず、畜産センターの方から近江チャボの卵をもらってきて、それを孵しました。それも、10羽ほど孵ったと思うのですが、それも引き取り手を探して何とか受けてくださったのですが、令和4年のときからはもう受け手がなかったので、せつかくの体験なのですが、その後のことも考えるとむやみやたらにはできないということで、現在は止めています。そういった体験もさせている子がいました。

それから、その次の写真が、体育館で自分たちが夜の集いの時間に何をして遊ぶか、カローリング

をしたり、紙飛行機大会をしたり、二日目の夜は花火したいということで、花火も打ち上げや手持ち花火だけではなく、ナイアガラというのがあったのでこれを探してきたら非常に人気があって、ここの3年ほどやっています。

それから17ページ最後のページになりますが、上は自分たちが考えたものを調理するという写真、それから一番右端が全員でその日のお食事当番の人が号令をかけて食べるという写真です。

その下の写真が、令和2年から先ほど言いましたようにコロナ禍になりまして、2年度は止めていますが、3年度4年度からは、防災テントを張って行いました。

これはなぜかという、5年生6年生で経験し、6年生は卒業するのですが、5年生は経験して6年生になります。次の5年生が上がってくるのですが、コロナ禍で止めると「2年間誰も経験したことがないまま中学校に行ってしまうということは避けたい」と、実行委員会のなかで話が出ましたので、あえて防災テントを使って、密集しないようにしようと。これは和室でやっており、このときは10名弱だったのですが、今年は人数が多く15、6名いたので、体育館のなかでやりました。今体育館は町長の計らいで冷暖房設備の空調設備をつけてもらったのですが、その当時はなかったので暑かったです。大型扇風機を上で回していたのですが、それでも暑かったのですけれども、そういったことも体験になるということで、本来避難所に入ったらこんな生活になるということも体験できたので、良かったのではと思っています。

【生涯学習課長】

すみません、安田さん。ちょっと時間が。5分と決まっていますので。

【安田主事】

あとは、消防は小学校で放水を、土曜日にやります。

それから、その横は3日間の全日程を終えた修了証書を交付しています。

一番下の大きいのは、各班の自分たちの気づきや、いろんな意見をそれぞれ掲げあって、シールを作って貼っています。これで最後の発表という形をとらせていただいています。

以上で西桜谷の通学合宿になります。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

町長が4時半から用事がありますので、ちょっと短縮してよろしく願います。

【野矢主事】

前の3人さんが良いことをたくさん言ってくださったので、西大路のところはかいつまんでご紹介させていただきます。

西大路公民館の運営方針を掲載させていただいていますが、今年、特にこの小学校・幼稚園との連携というところを改めて意識して活動させていただきました。理由としましては、私も一昨年までPTAの役員させていただいて、学校教育、学校の先生方が、地域というのは公民館のことを地域と言っているような節があると常々思っていて、地域はもっと奥深くだということを、学校の先生方と、子どもたちにも知ってもらいたいと思い、いろんなことを企画させてもらっています。

一つ目、幼・小・公ミーティングについては、これはずっと前から、コミュニティスクールが始まってから継続はしているのですが、特に今年になり、それぞれの事業を共有しながら、「だったらこの地域の人は使えるからここに」など、そういうふうな提案をさせてもらったりしています。

二つ目、西大路夏休みカレンダー、こちら詳細は裏面に掲載させてもらっています。「学校では解決できない、特に長期休みの子どもたちの課題」というところの、居場所づくりの観点も含めて、公民館で解決することができますよというのを提案させていただきました。

ここでも公民館ではなく解決するのは地域の人なのです。だから学校の先生方は地域の人にちゃんと感謝してくださいねというような感じで、学校長ともご相談させていただきながらこちらのカレンダーを発行しています。

三つ目、幼稚園小学校運動会と西大路地区体育大会との同日開催についても、そこは地域からは難しいだろうというような話はあったのですが、先ほど言ったような運営方針に基づきまして、どうしても小学校と一緒にやらねばならないのだということをお願いして、今年少し強引でしたが、開催をさせていただきました。

これによって学校の先生方も「地域での子どもたちの顔というのも見ることができた」というコメントもいただいておりますし、地域の方からも「学校で今こういうふうに行っているんだ」というのを、実際の教育現場を見るという機会をもらいましたので、非常に良い経験をさせていただいたと思っております。

四つ目、日野町放課後支援事業（西大路小学校チャレンジ教室）を、今年は小学校から公民館に場所を移動して開催をしていただいております。こちら主となっておりますのは小学校が運営ですが、公民館という場所ですること、先生方も地域の方、今ちょうど村井さんも参画者として入っていただいておりますが、「公民館が地域ではなくて、その奥に地域の人がいるんだ」というのを先生方にも知っていただいて、子どもたちにも「地域の人がいるんだ」というのを知っていただく良い機会になればいいなと思って、この四つのテーマについてご紹介をさせていただきました。

以上です。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

続きまして、鎌掛公民館、よろしくお願いします。

【山下主事】

鎌掛公民館です。特色ある活動と言いますけど、そういうふうな特色ある活動がないのかなと思ひまして、今鎌掛公民館の実行委員さんに鎌掛公民館の事業活動の課題ということについて、いろいろ議論してもらっています。その内容をご報告させてもらおうかと考え、20、21 ページに書かせていただきました。

現在町内の公民館では多くの公民館がコロナ禍を経まして、従来型の町民運動会を開催されておりますが、鎌掛公民館では運動会ができていません。

公民館のいろいろな事業を審議する公民館運営委員会のなかでは、従来型の町民運動会の開催について一定の反発というのか、毛嫌いされているような状況がありまして、競争力のない個人の意思を尊重した形の、自由参加型のスポーツフェスティバルという形で、数種類の軽スポーツなどをコロナ禍の後数年間は実施してきています。

しかし、今一定コロナが収束してきていますので、今この段階で、これから先の運動会はどうしたらいいのかなという形で公民館の実行委員さんに数回議論していただいて、現在原案を練っていただいて、これからまた全体の実行委員会で議論をしていただいている最中ですので結果は出ていないのですが、実行委員さんの熟議によりますその概要をご説明させていただいて、鎌掛公民館の報告とさせていただきますと思います。

20 ページの「これからの運動会のあり方について」ということで、読ませていただきます。

まず公民館活動の背景ですが、コロナ感染症の拡大影響によりまして、従来の町民運動会は中止となりました。その次の年から、密にならない、また個人の意思による参加スタイルでのスポーツイベントを実施してまいりました。私たちは、これはコロナ禍におけます緊急避難的、一時的な対応の認識でありました。

ですが、コロナ禍での住民意識の変化、全てにおいて縮小や、あるいは簡素化していこうという傾向がありまして、また鎌掛においては近年の著しい若者世代の地区外流出であったり、少子化などにより人口減少もありまして、住民意識の根底に、半強制的な参加の運動会という形は、反発があるのかなと思っています。こういうことから住民同士の交流、コミュニティが減少してきつつあるのかと。ひいては地域活力の低下になってきている状況ではないのかと思っています。

そういったことで、公民館活動に目を向けますと、運動会実施の目的を考えてみますと、公民館の役割というのは、「つどう」、「なまぶ」、「むすぶ」という三つの原則があるとよく言われますが、つどい、つながる活動を推進していこうと思うと、ふれあい事業の推進というのは必要なのではないかと思います。

それでも、鎌掛では従来型の形式の運動会実施は難しいのではないのかという認識をしています。

特に区対抗。鎌掛では1区から6区まで六つの区があるのですが、小さい区では20件あるかないかの状況です。そういう区対抗のリレーも難しい。半強制的な参加も難しいのではないかと思います。

これから先は、鎌掛地域の強みや特性…何が強みで特性かわかりませんが、これからも私たちのなかでそれを見つけていこうと思っていますが、そういうのを活かして新しく考え直していく、そういうことが必要かと思っています。

これからの運動会の実施の基本的な考え方としては、ここに五つほど書いているのですが、これらを大切にしていきたいと思っています。

一つ目は、伝統的な運動会の形にこだわる必要はないということです。先ほど言いましたように、区対抗のリレーなどはなかなか難しいため、現在少し話が出ていますのは、鎌掛は、鎌掛村になる以前は二つの村がありまして鎌掛村とイチノセ村というのですが、今でも名残があり、神社が東宮さん、西宮さんがあるのですけれども、それで分けて東西対抗にしようかななどの案もありまして、今のままの区対抗はなかなか厳しいというご意見があります。

そして、二つ目の、やはり住民が楽しく集える場の提供ということで、納涼祭や文化祭は、約700、800人の参加があり、鎌掛を出られた方のお子さんやその家族などを呼ぶなど、そんな雰囲気があるのですけれども、例えばスポーツイベントになりますと100人足らずという。この差は何だろうという話もあるのですが、やはり楽しくないと参加をしてもらえないという状況があるのかなと。

「住民の皆さんが楽しんでもらえるような運動会にするにはどんな工夫が必要なのか」ということをまず考えなければならないのでは、という話があります。住民同士が交流しながら、コミュニティを育むという場にしていきたいというのが三つ目です。

四つ目は、スポーツしたい人、またスポーツができない人も含めて親睦を図る場として運動会の実施ができればいいなという話も出てきています。

そして五つ目の、世代を超えて触れ合える場として、親睦を深め、地域の結びつきを強める、そういうふうな基本的な考え方のもとで運動会ができるといいなということを話し合っています。

これらを踏まえ、単年度で上記のような運動会を復活させて、多くの住民参加を得ることはなかなか難しいのではと考え、そのために中、長期的に取り組むことが必要なのではないかと思います。これにより、運動会の開催イメージとしましては、一番下に書いていますように、「家族全員が相集い、

地域の人とふれあい、みんなが応援することを通して笑顔あふれる大会」。そんな運動会になればいいなと思っていますが、これは総論的な話ですので、裏のページが実行委員さんに作成いただいた中期計画のロードマップの案です。

これはまだ協議ができていませんので、様々な意見があります。人口減少をしている時代なのに参加者が増えるような計画はおかしいのではという話や、実行委員さんの任期が2年なのに負担をかけるような計画というのはおかしいのではという話、また、その時々の実行委員さんの判断に委ねて足かせをせずに自由にやればいいのかはなど、いろいろな話があり、これから先議論をしていくなかで、できたら新年度の4月の公民館運営委員会には「こういうことを考えています」ということがご提案できるとありがたいと思っています。

まだ途中段階ではありますけれども、こういう形で現在実行委員さんに協議をしていただいていますので報告させていただきます。

以上です。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

それでは南比都佐公民館、お願いします

【藤崎主事】

それでは簡単に説明させていただきます。

南比都佐公民館の特色ある事業としまして、子ども参加できる事業としましては、新春マラソン大会。これは長く続いております。

そして、今年は「子ども隊長マルシェ」も実施しました。

防災通学合宿は通年通り実施しております。

この資料にありますように、今年「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」とうことで、「みんなで作ろう炬火受皿作り」という募集がありましたので、募集しましたところ、推薦いただきまして、8月の27日に陶芸の森の方へ行き、炬火受皿の土台に並べる小物づくりをしてきました。

炬火受皿というのは、炎を灯す受け皿のことで、資料はないのですが、こういう炬火が開催地に置かれるわけです。台座に乗せる小さい小物を子どもたちが作りました。自分用にひとつと、南比都佐の公民館は人が少なかったので、1人二つずつ作っていただきました。

滋賀県に何か関係のあるものを作ろうとすることで、ナマズなどの小物を作ってきました。これが今年国体の、大谷公園の炬火のところに飾られるので、子どもはたいへん楽しみにしております。

もう一点は、先日必佐小学校の子どもたちが南比都佐小学校へ来たときに、南比都佐のアピールとして、南比都佐小学校に来ると前の国道にいろんな車が通るため、バイク、救急車、特殊…いろんな車が見られるから、ぜひとも南比都佐小学校へ来てくださいということでアピールをしてきました。

と、ということでよろしくお願いします。

ありがとうございます。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

それでは、必佐公民館、お願いします。

【高木主事】

必佐公民館の特色ある活動といたしますか、コロナ明けからの活動にはなるのですが、どうしてもコロナで事業が縮小になりまして、人が来なかったところをどうにか人を呼ぼうということで、事業を考えて令和3年度から活動を始めました。

特に力を入れているのが、男性と子どもです。いろんな事業をするにあたって、基本的にどうしても女性が多いです。男女一緒に募集しても、1割が男性、9割が女性と比率になりましたので、「男性はどうして来ないのか」というところではなく、「もう男性と女性を分けて事業をしましょう」ということで、事業としては同じ名前でも「必佐」にかけて「必佐つ技（ひっさつわざ）」という形にはしているのですが、今までなかったようなことをしてみたり、少し変わったブドウの鉢植えであったり、メロンの鉢植えであったり、というのを令和3年度からさせてもらっています。

男性女性を分けたからなのか、男性も女性もそれぞれ定員いっぱいまで来てくださっていますので、今まで顔が見えなかった方が来てくださったり、その方が「1回来たことをきっかけに公民館に足を運びやすくなった」というような話も聞けたり、やはり普段見ない方が来てくださるのはありがたいですし、その方が公民館のリピーターになってくださったのがすごくありがたいと思っております。

また、子どもの事業の方なのですが、令和3年度から夏休みと冬休みに公民館で事業をしようかということで、令和3年度からはプログラミングの方をしまして、これは続かなかったので次年度からは別のところでしょうということで、夏休みに健康推進員さんにご協力をいただきましてカレーを作ったり、冬休みには、公民館の調理管理員さんという調理室を管理して下さっている団体さんがおられるのですが、そちらの方とコラボしまして餅つき大会をしたり、今までなかったことをしてなるべく子どもたちに足を運んでもらって…やはりどうしても必佐公民館と必佐小学校が遠いため、物理的距離は心理的距離でもあるので、何とかして足を運んでもらおうかなと思っております。

また、令和4年度から始めました文字塾なども定期的に子どもたちが来てくれていまして、お互い顔と名前が少しずつわかるような関係になっているのもありがたいことなのかなと思います。

資料の方の子ども大会など、コロナでできなかつたところがだいぶ復活してきましたので、これはいい傾向だということで、特に今年の子どもの会の皆さんは積極的でおられて、普段でしたら子ども会の事業は子ども大会だけで終わってしまっていたのですが、夏休みにバスの旅行に行ったり、つい最近ですと2月の15日に、第1回子どもたちのカロム大会をしようかということで、募集したところ28人の応募で第1回の必佐のカロムチャンピオンが決まったということでもあります。

何でもいいので、一度公民館に目を向けてもらって、少しでも知ってもらえて来やすくなる距離感になればいいなというところでもあります。それは男性の方でも一緒の話でありますので、これは他の公民館もされているのですが、資料の最後の方についている「男性のための運動教室」ということで、こちら引き続き来年度も進めていこうと思っております。

簡単ではありますが、以上です。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

以上で7公民館の特色ある事業の発表をさせていただきました。

【町長】

ありがとうございました。

それでは、限られた時間となりますが、お三方にコメントといたしますか、感想でも結構ですし、聞きたいこともあれば、意見交換をいただければと思います。

本居委員さん、いかがですか。

【本居委員】

ありがとうございます。

このように、日野町全部の公民館のお話を聞けるというのは、非常にありがたい機会をいただいたと思います。

また、取り組みのお話を聞かせていただいて、本当にそれぞれの公民館で自分たちの地域の特性を活かしたというか、人数にしてもそうですし、地域の強みを活かした取り組みをすごく考えられているというのを改めて感じさせていただいて、やはりもっと地域の皆さんが、自分の地域だけではなく、公民館が、地域の方がいろいろ考えてしてくださっているというのをもっと知ることができるというのを、いつも参加させてもらう側からして、とてもそこを感じさせていただきました。

従来からやっていることを当然毎年同じようにやるのが楽といたしますか、考えずにできるのでそれはそれで良いことなのですが、コロナ禍もありましたし、今の皆さんの考え方もいろんな考え方がありますので、その辺りも、従来のものをやり続けるではなくて、どうしたら参加しやすいだろうかと。先ほど鎌掛公民館の方が言うてくださったように、楽しくないと参加できないというのが本当に大事なところだなというのを、皆さんが工夫されているお話を聞きながら感じさせていただきました。

参加する側としても、今のお話を聞いたところをもっと他の方、今まで公民館に足を運んでおられない方などに伝えていけたらと思いました。

【町長】

ありがとうございました。

では村井委員さん、いかがですか。承る

【村井委員】

はい。先月の教育委員会の定例会で、「次回は西大路公民館で教育会議します」と言われたときに、「西大路公民館の活動を皆さんに紹介できる。やった！」という感じで、すごく「西大路公民館、張っているのですよ」と宣伝してしまったのです。

それで、今日来させていただいたら、私勉強不足で申し訳ありませんが、各公民館がこれだけ素晴らしい活動されているということを、今日知ることができて本当に良かったと思います。

自分のところしか知らないというのは勿体ないということで、できたら他の地域の方も参加してもいいのかなという思いがありまして、もっともっと窓口を広げていただけたらお邪魔しに行きたいと思いました。

それともう一つ、地域の人との交流を求めておられるというのは、どの公民館にもすごく感じましたので、キーパーソンとなる人がおられると輪が広がっていくのですが、その人をどうやって連れて来られたのか、こうして活動のリーダーとなるような方をどうやって見つけられたのかというのも伺えたらと思いました。

以上です。いつかお邪魔します。よろしくをお願いします。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

全部の公民館は今回は無理なので、どこか指名していただけたら。

【村井委員】

気になったのは鎌掛公民館さんなのです。長いスパン変えていこうという取り組みをされているので、年齢が高い人なら長いスパンというのは辛いかと思うのですが、若い人をどう取り組んでいかれるようにしておられるのですか。

【山下主事】

これはまだ計画段階で実施できていないので、先ほど言いましたように、そういう長いスパンでないと変えられないなど。けれどやはり、参加人数というのは指標になり、興味がないと来てもらえないのでいかに興味を持ってもらうかで、今よりも少しずつ人数が増えることを望むという形なのですが、今言われたようにお年寄りはなかなか難しく、若い人に来てもらうのは私たちも課題だと思っています。

情報交換も実行委員のなかでしていますが、若い人に来てもらえるような工夫というのが何なのか、これから試行錯誤していくのかなと思っています。また良い案があれば教えてください。よろしくお願いします。

【生涯学習課長】

キーパーソンになる方はおられますか。どうやって改革を進めようか、中心となる方は。

【山下主事】

まだこれからです。

【町長】

では川原さん、いかがですか。

【川原委員】

7地区の公民館の主事さんということで、大変ご尽力いただいていることがよくわかりました。

一般の町民として私も西桜谷の方に所属しているのですが、なかなか主事さんの頑張りとは裏腹に役員を選出していこうと、例えば公民館の実行委員を送り出そうというのは非常に大変で、なり手がないという状況なのです。先ほどおっしゃられましたけれど、本当にやる気のある人ばかり集まれば、もちろん主事さんも簡単だと思うのですが、そうでない人をまとめて引っ張って行って、いかに行事の盛り上げ役をしてもらうかというところに大変苦勞されているのかなと思います。

実際、人数も減っていますし、若い人も仕事に行って帰ってくるのが遅い。年齢のいった方も、70歳近くまで仕事に行き、なかなか夜の会合も出られないというようなことが、実際どこでも起こっているかと思っています。

先ほど鎌掛公民館さんがおっしゃったように、ビジョンを持って、ロードマップを作って、公民館の将来をまとめていこうとされていると思うのですが、やはり「人」ですね。どういった人をどう育てていくかというところが、私は今区長という立場もやらせてもらっているのですが、なかなか難しいところなので、できればこの7地区の主事さん、館長さんも集まって、また住民の代表も集め、そういった人材発掘というか、人材育成の検討会みたいなものを出していただいて、各区の方へまた振っていただければと思います。

区の方も現在役員を選出で悩んでおられて、なかなか手がなくて、お願いしても「もう私4回目」など、そんな人ばかりなのです。頼みにくいところもありまして。

そういった人でも楽しめる、できるだけ負担なく役が務められるようなもっていき方を、おそらく

主事さんは大変だと思うのですが、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日はありがとうございます。

【町長】

ありがとうございました。

【山下主事】

すみません。

【町長】

はい。

【山下主事】

先ほどキーパーソンさんのお話で、緊張して何もう思ひつかないのですが、一つ例なのですが、先ほどの公民館の負担の話もありましたが、私たち納涼祭や文化祭、マルシェなどしたりして、たくさんの人に来てもらうという話をしていますけれど、実行委員さんをやってくれていた方が、「これだけ実行委員さんが大変なので、私がOBとなったときには繋ぎ役や調整役をします」と言ってくれました。去年からその人が鎌掛地区のマルシェを出店してくれる出店者の連絡調整や、今までは実行委員さんが屋台を出されていたのですが、マルシェの実行に専念してもらって負担軽減はできていますし、そういう連絡調整もそのOBさんがやってくれていますので、その方々がキーパーソンになりつつあるのかなと思ひています。

そういった公民館実行委員さんを経験してくれた方々がOBとしてまたこういう形で地域貢献というか、尽力してくださったり支援してくださっているという部分もありますので、そういうのを大切にしていきたいという思ひはしています。

【町長】

ありがとうございました。

限られた時間でしたが、私はことあるごとにそれぞれの公民館を回らせてもらっていますが、それは誰しもそうではなくて、自分の所属している地域ばかりになってしまっていますけれど、いろいろなところに行くことができたり、情報共有をすることは改めて大事だと感じさせていただきました。

それでは教育長、いかがですか。

【教育長】

まずは、議会だよりに書いてくださる、こういう熱い思ひを大事にしなければならぬと思ひました。

活動してくださるなかで、やはり防災という現代的な課題は外せないということが、この社会教育の研修会などでも出ていましたので、ポイントかと思ひます。

そして、学校、園との繋がり。そういったところで、子どもとの事業をどういうふうに展開していくのかということが、すごくうまく実行されているところがあるので、そこは他もシェアや共有して、ノウハウしていくべきだと思ひますし、そういう意味でしたら学校教育もいろいろここに参画しなければならぬと思ひます。

究極は、やはり中高生の卒業生たちの出番を作るような、明日の実行委員に繋がるような、そうい

う仕掛け、そういう強かな視点をもって、子どもの事業を組んでおくということが大事かなと、私は常日頃から感じております。

それが最終的には、キーパーソンに繋がっていくかと思います。山下さんが最後におっしゃった、OB、OGの方々、そういう人たちを繋ぎとめておかなければならないと思いました。

PTAの会長さんは毎年変わられるのです。PTAの会長さんを組織しておくというか、そういう仕掛けが大事かと。会長さんは大体PTAのことをわかったうえで辞めていかれるのですが、それを逃がさない。向こう10年先のPTAの会長を組織するだけでも、すごく学校にとっては大きな力になると思うのですが、そういう経験者を公民館として組織しておくというのは大事かなと思います。

こういう「人材をどうしていくのか」という川原さんがおっしゃった議論というのは、役場全体でも考えていかなければならないところだと思うので、決して公民館だけの問題ではないなと思います。ぜひともそんな議論をしながら、また皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

【町長】

ありがとうございました。

それでは、長時間にわたりましてご紹介とご意見等もいただきましてありがとうございました。

やはりこういう機会は非常に大事だと思います。館長さんや主事さんが集まって、またこういう機会を作ってほしいと思います。同時に7館はなかなか伝わりにくいかなと思いますし、南比都佐さんなども今日はだいぶんあっさり紹介いただいたのですが、今日ご紹介いただいた以外にも素敵な事業をいっぱいされているのを知っていますので、またそれぞれの皆さんご協力いただいて、日野町全体を、公民館を核に新たな時代に進んでいかないといけないと思います。

駆け足で申し訳ございませんけれども、以上をもちまして本日の総合教育会議を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

【一同】

ありがとうございました。